

2016全日本ロードレース選手権第4戦 茂木
MFJ-CUP JP250クラス
参戦報告書

- エントリー名: TRICK STAR Racing
- 監督: 鶴田竜二
- ライダー/ゼッケン: 田中 歩 (#82)
兵藤龍之介 (#11)
藤村太磯 (#13)
- 開催日/サーキット: 2016年8月19日(金)~8月20日(土)
: 栃木県 ツインリンクもてぎ
- マシン: カワサキNinja250
- 結果: 田中歩 予選 5位 レース 優勝
: 兵藤龍之介 予選 6位 レース 17位
: 藤村太磯 予選 2位 レース 9位

全日本ロードレース選手権併催JP250クラス第4戦目が、ツインリンクもてぎで開催された。台風が迫る中でも、40台フルグリッドの賑わいをみせていたが、天候は安定せず波乱も予想された。#82田中歩はJP250仕様のninja250では初のレース。事前テストは行わなかったが、練習走行のタイムでは常に上位であった。#13藤村大磯、#11兵藤龍之介は、7月9日のモテギロードレース選手権にテストも兼ねて参加。#11兵藤は7月8日の練習で転倒し鎖骨を折ってしまうケガを負ったが何とか治癒。痛み上がりでのレース参加となった。



TRICK STAR

【8月20日(土) 公式予選】

Qualify 8:20~8:40

天候:雨 コース:ウェット

前日の練習では路面がドライコンディションだったため、雨のウェットコンディションの走行は今回の日程では初めてであった。#82田中は序盤から単独で走行。タイムは途中入れ替わりはあったものの、終盤までほぼ#82田中のタイムがトップであった。#11兵藤、#13藤村は、同じ集団の中で走行。中盤からは#13藤村は5番手、#11兵藤は6番手のタイムを刻む。

予選時間終了前のラストラップ、#13藤村、#11兵藤の集団からライバル車両がタイムアタックを仕掛け大幅なタイム短縮に成功。そのあとを追っていった#13藤村は予選2位のタイムでチェッカーを受ける。この集団のタイムアップで順位が変動し、#82田中は予選5位、兵藤は6位通過となった。3名とも予選上位通過であり、十分に表彰台を狙える位置で予選を終えることとなった。

【8月20日(土) 決勝レース 8ラップ】

Final 12:15~ 8ラップ

天候:晴れ コース:ハーフウェット

決勝レース30分前までかなり強い雨が降っていたが、急に晴れ始め、レースが始まる頃には晴れ間が広がっていた。そのため、路面コンディションはレースが進むにつれドライに向かっていく難しい状態となった。

スタートでは、1コーナーを#13藤村が2番手、#82田中が4番手で通過。兵藤は出だしは良かったものの、グリッドのポジションから順位を上げる事は出来なかった。3コーナー地点で#13藤村は順位を落としてしまうが、#82田中は3番手へと順位を上げる。LAP1の最終コーナーで#82田中は二番手に順位を上げてホームストレートを通り抜けていく。藤村は少しづつ順位を落としていき、7位でLAP2へ突入していった。LAP2中盤で#82田中はトップに立ち、そのまま独走。徐々に後続車を離していく。#13藤村は7番手、#11兵藤は、自分のペースをなかなか上げる事が出来ず、順位を落とし15番手となった。

その後も#82田中は、安定したライディングで後続車との距離を広げていく。路面が乾いてきたことで全体のタイムが少しづつ上がっていったが、ギャップは縮まる気配はなかった。#13藤村は一時は5番手まで巻き返すが、徐々に抜かれてしまい9位。#11兵藤は、順位を落としていき、後続集団へのまかれてしまう。

LAP5の終盤、ライバル車両がS字にて転倒。赤旗となりレースが中断される。そのままレースは成立しているとみなされ終了した。

【ライダー 田中歩選手 コメント】

予選 5位

金曜日の走行はドライで走れたものの予選は予報通り雨となりました。一番後ろからコースインし、序盤から攻めていきました。一番先頭に立ったところで後ろを確認するとだれもついてこれないのが確認でき、サインボードにもP1と出ていたのでそのまま無理にペースを上げず終了しました。ところが少しコンディションが良かったラストラップにタイムを更新されてしまい、5番手スタートとなりました。

決勝 1位

決勝ではハーフウェットをレインタイヤで走るという難しいレースでしたが、1週目に3番手にあがり集団のペースが遅いのが分かったので、トップに立ちそこから全力で攻め後続を引き離す事が出来ました。

6週目に入った所で赤旗が出てそのままレース終了で優勝する事が出来ました。

事前テストなしのハーフウェットのレースにも関わらず、後ろを引き離すレースが出来て良かったです。予選の走りなど、まだまだ課題が見つかり今後に向けては良い経験にもなりました。次戦も今回同様優勝出来るように頑張ります。

最後にいつも応援して頂いているスポンサー様、ファンの皆様、そしてチームの皆さんに感謝しています。ありがとうございました。



【ライダー 兵藤龍之介選手 コメント】

予選

路面はウェットでした。初めの2周はしっかりと路面を確認し、3週目からしっかりとタイムアタックをしました。初めはなかなか順位を上げる事が出来なかったのですが、ブレーキングポイントをしっかりと奥に取り走ると、タイムも上がり、目の前の集団に追い付くことができました。最終ラップではスリップにつき良いタイムを出せそうでしたが、V字コーナーで突っ込み過ぎるミスをしてしまいました。それでもなんとか6番手のタイムを出すことができました。

決勝

路面は、ピットから出るまでは完全にウェットだったのですが、スタート前チェックが終わり車検場からでるととても晴れており、ウォームアップ走行時にハーフウェットになっていました。スタートの出だしは良かったのですが、なかなか自分のペースを上げる事が出来ず、ズルズルと順位は下がっていききました。初めは何とか食らいついていこうとしたのですが、後ろの集団にのまれてしまい、残り3周時点で赤旗が降られ、17位でゴールしました。今まで決勝でこんなにもいろいろなライダーに抜かれた事がなかったので、とてもショックでした。もうこんなレースは絶対にしたくないです。

次の岡山までには、しっかりと自分の弱点を克服して優勝できるように頑張ります。最後に応援して下さいましたスポンサー様、ファンの皆様、本当にありがとうございました。





TRICK STAR

【ライダー 藤村太磯選手 コメント】

もてぎでのレースは、約一カ月前のもてぎ地方選手権以来のレースとなりました。18日にJP250参加者の中では一番にサーキットへ入り、テントの設営とマシンメンテナンスを行いました。早めに準備を終わらせ、ホテルへ行き、翌日の走行に備えました。

19日は、30分X2本走行です。1本目はドライ路面だったのですが、ウェットパッチが少し残るコンディション。2本目はドライ路面、しかしフォーミュラカーの走行に加え、路面温度上昇により、スリッピーなコンディションの中での走行となりました。両走行とも、ベストタイムから1秒遅いタイムでした。前回の地方選よりも遅いタイムですが、地方戦の時に感じていた前後バランスの悪さとチャタリングはおおよそ解消できていました。走行終了後、翌日の予選、決勝に備えてメンテナンスを入念に行い、ホテルで走りのイメージが描いて休養を取りました。20日は、8時20分頃からの予選に備えて6時ごろサーキットに入り、準備を行いました。前日から予想していたとおり雨が降っており、レインタイヤを履いての走行です。関東にホームを置くライダーよりも走り込みが出来ていないコースですので、ウェットコンディションは自分にとっては有利な状況でした。

予選は20分で十分に時間があります。SUGO大会での予選では、同じ雨の状況で1番最初にコースインし、走り慣れていないコースだった為、順位を落としてしまいました。

この経験を踏まえ、今回は真ん中あたりから走り始めました。スタート後は、コースのグリップ感がどれくらいなのかを確認するために慎重に走り始め、他車の良いところを吸収しながら、周回を重ねるごとにタイムを徐々にあげていきました。最もコースコンディションが良かった8周目に走りをうまくまとめ、二番手を獲得しました。

決勝は午後から行われました。予選終了後も雨は降っていましたが、雨脚は徐々に弱くなっていきました。決勝スタート前には晴れ間がのぞき、スタートしてからは太陽の日差しを感じるほどでした。当然路面状況は予選とは異なり、所々乾いている部分があり、濡れているところに注意する必要がありましたが、周回を重ねるごとにどんどん乾いていきました。

スタートはうまく決まらず5番手くらいで1コーナーを通過しました。1周目は路面状況を掴みきれなかったためにペースが上がらず、かなり慎重に走行しました。あまりにも慎重になりすぎたために、かなり順位を落としてしまいました。その後はスリップストリームを使ってパッシングするも、今一つ自信を持ってコーナーへ飛び込んでいけず、侵入で抜き返される展開となってしまいました。

「このままではいけない」と自分を奮い立たせ、レース周回の半分を過ぎたあたりでスパートをかけました。せめて国内ライセンスストップまでは追いあげようとペースを上げていった所で、S字コーナーでの転倒により赤旗が掲示され、その後レースが再開されることなくレース成立となりました。「ここからおいあげるぞ」と気持ちを切り替えた直後の赤旗でしたので、非常に残念ですが、このような事も想定してレースを組み立てるべきでした。また、そもそもレース前半で大きく順位を落してしまうような走りをしたことも大いに反省すべき点です。

今回はこれまで行ってきたオフロードトレーニングの成果を発揮できる最高の状況でしたが、自信を強く持って臨まなかった自分の弱さが結果につながってしまいました。次のレースからはもっと自信を持って臨めるように、自信を持ってトレーニングをし、トレーニングしたことに自信を持てるよう工夫していきたいと思えます。

最後になりますが、スポンサー様、応援して頂いた皆様、チームの皆様、関係者の方々全員に感謝しています。これからも応援よろしくお願ひします。

